



2015年に向けた
リサイクル行動計画
「プラン2015」

容環協は、2011年4月に2015年を目標年度としたリサイクル行動計画「プラン2015」を策定しました。この計画は、2007年に策定した「プラン2010」を継続し発展させるものです。

プラン2010では、環境負荷の少ない社会、一人ひとりが環境を考え行動する社会の実現に向けて、「紙パックの回収率を高める」、「紙パックの環境特性を正しく伝える」、「環境を考え、行動する人を増やす」を目的にしました。これらの目的を実現するため、事業の体系化を図り、重点事業を決めました。また毎年、計画の見直しを行ってきました。

プラン2010は、経済の変動が激しい状況の中にあっても、概ね順調に展開できました。例えば回収ボックスの提供や、出前授業などの教育・学習的な側面では成果を上げることができました。

しかし、最も重要な家庭からの紙パック回収率は思うほど伸びなかったこともあって、目標とした回収率50%達成には至りませんでした。計画に基づく諸事業が短期間で回収率に反映されにくいこと、また、自らの活動はできても、それを拡げることができなかったことが大きな理由でした。

プラン2015では、これまでの理念は踏襲しながらも、事業がより実効的、かつ社会に広範に拡がっていくよう計画を見直しました。初年度の2011年には、回収率50%以上に向けての計画を確実に実現するためのロードマップ作り着手しました。今後は、Plan(計画)→ Do(実行)→ Check(評価)→ Act(改善)というサイクルをしっかりと回し、様々な人々の賛同を得ながら、容環協はプラン2015の確実な目標達成に向けての諸事業を強力に推進していきます。



日本と韓国の乳業メーカーや環境団体会して
「グリーン経営」とリサイクル活動について
情報交換を行いました。

【日韓フォーラム】

韓国乳業関係視察団の主な見学先

韓国視察団の方々には初日から紙パックリサイクル中間処理施設や乳業メーカーの工場を精力的に見学され、スーパーの視察では店内見学の他に分別回収やリサイクルのやり方など、日本でのリサイクルの現状を熱心に勉強されていました。

- ・中間処理施設見学(大阪府)
- ・乳業工場見学(神戸市、大阪府、京都府)
- ・市場調査(吹田市内スーパー)
- ・環の縁結びフォーラム参加

【第5回環の縁結びフォーラム】

11月30日、TKP大阪梅田ビジネスセンターにて開催された「第5回環の縁結びフォーラム(全国パック連主催)」の場を日本と韓国乳加工産業の環境政策情報交流を促進する場として、韓国の乳業関係者16名、日本の国・各種団体・関連企業などからも70名が参加し、両国での環境への取り組みについて様々な事例を踏まえ、報告されました。



韓国乳業関係視察団の皆様

主催者の平井代表より「日本における紙パックリサイクルの展開と日韓両国の乳加工産業の交流の経緯について」、容環協 中嶋会長より「乳業発展のためには環境保全の取組みは重要度を増してきており、両国の乳業関係者が集まり最新の情報を交換することは非常に有意義なことで今後も継続したい」との挨拶がありました。

また、韓国紙パック資源循環協会(KPCRA)李会長より「フォーラムを通じて、韓日乳加工産業の本格的な継続的交流や情報共有などがさらに進展していくことを期待します」との挨拶がありました。

〔基調講演〕

農林水産省食品産業環境対策室から「食品産業の主な環境政策について」というテーマで、「食品リサイクル法」「容器包装リサイクル法」「省エネ法」「地球温暖化対策促進法」の概要、それらに対する食品関連業者の責務や国の取組み内容などの講演がありました。

〔事例報告〕

第一部 韓国の取組み事例報告

- 社団法人 韓国乳加工協会
「韓国乳製品市場の最新動向」
- 学校法人 延世大学校 延世牛乳
「延世牛乳のGreen経営の事例」
- 社団法人 韓国発泡スチレン再活用協会
「韓国における生産者再活用責任制およびEPS再活用について」

第二部 日本の取組み事例報告

- 一般社団法人 日本乳業協会
「日本乳業協会の環境自主行動計画とグリーン活動」
- 株式会社エフピコ
「エフピコ方式のリサイクル(トレー)を(トレー)に PET(ボトル)を(トレー)に」
- NPO法人ごみじゃぱん
「容器包装の持続的削減に向けた生活者運動(減装(へらそう)ショッピング)について」

日韓双方のグリーン経営と資源循環政策についての報告はたいへん興味深い内容で、その後の質疑応答も活発に行われ、また新たな情報共有につながる有意義なフォーラムとなりました。

- 紙パックの回収率を高める
- 紙パックの環境特性を正しく伝える
- 環境を考え、行動する人を増やす

1 地域の回収力を高める場づくり

- 地域特性に応じた地域会議の開催とフォロー
- リサイクル講習会の開催とフォロー
- ステークホルダー会議などの充実
- 紙パックをめぐる諸活動の担い手の発掘と支援
- 地域の環境フェアなどへの参加と情報共有

2 家庭の紙パックの回収促進

- 回収のきっかけづくり
- 牛乳1000ml以外の回収促進
- 紙パックとしての分別の促進
- 家庭での再活用から資源価値の高い再生紙へ

3 屋外や店舗で飲まれる紙パックの回収促進

- 職場や高校・大学などでの紙パック回収の検討
- 外食産業などの店舗で使用される紙パックの回収

4 教育や学習の場における活動の促進

- 教育・学習とリサイクルの協調
- 学乳パックの回収率向上

5 リサイクルに向けたコミュニケーションの充実

- 再生品の利用促進
- インターネットなどによるコミュニケーション
- 紙パックリサイクルを通じた国際的連携

牛乳パックリサイクル促進地域会議

牛乳パックリサイクル講習会

各地域での情報交換を通じて、
リサイクルの促進を図る
地域会議を開催。

「牛乳パックリサイクル促進地域会議」は、容環協と全国パック連の共催で毎年開催されており、地域ごとの現状と課題を把握することで、牛乳パックリサイクルの拡大を図ることを目的としています。2011年は東京、兵庫の2カ所で開催しました。

各会議とも、自治体や関連メーカー、市民団体など多彩なメンバーの参加を得て、さまざまな報告や問題提起がされています。そして関係者が相互に理解を深め、情報交換することで、よりいっそうリサイクルを推進していくことを確認しました。

牛乳パックリサイクル促進地域会議 in 東京・西部地域／立川市

- ◆開催日 2011年3月9日
- ◆参加者 関東農政局、自治体関係者、市民団体、地元乳業メーカー、乳業関係者、製紙メーカー、回収事業者など計35名

【主な報告や問題提起】

- 自治体によっては、回収した牛乳パックなどでオリジナルトイレットペーパーを製作。立川市は「里がえり」と名づけて市内の公共施設で使用するほか、商店での販売やイベントでの配布を進めています。国分寺市でも同様に「こくぶんじ育ち」を製作しています。昭島市では環境イベントで市民が持参した牛乳パックと再生トイレットペーパーを交換し、毎回好評を得ています。
- 学乳に関しては、紙パックへの移行が度々検討されていますが、未だにびんを継続している自治体が多いです。
- 乳業メーカーでは、生産工程内で発生する損紙のリサイクルを進めているのはもちろんのこと、紙パックロスの低減化にも努めています。
- 製紙メーカーや古紙問屋からは、紙パックを新聞や雑誌と混ぜて出してはいけないということを知らない市民の方が多いとの意見がありました。

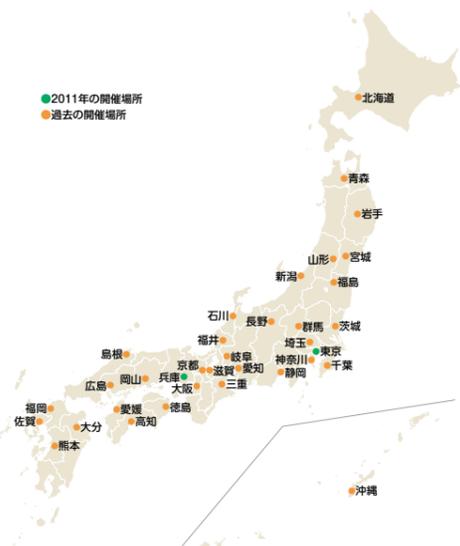
紙パックリサイクル促進地域会議 in 兵庫／神戸市・阪神地区

- ◆開催日 2011年9月21日
- ◆参加者 近畿農政局、自治体関係者、市民団体、地元乳業メーカー、乳業関係者、製紙メーカー、酒造メーカー、小売事業者、回収事業者など計43名

【主な報告や問題提起】

- 兵庫県では41市町のうち38市町が紙パックを回収しており、2009年度で1,740トン、店頭回収は微減傾向です。神戸市は紙パックの回収はしていませんが、須磨事業所ではワケトンハウスで展示コーナーをもうけ啓発。西宮市では学乳を2005年にびんから紙パックに変えたときに小学校で「洗って、開いて、乾かして」を実施。宝塚市では2006年からごみの分別収集を始めたところ焼却炉の使用が半減、紙類の分別も検討中です。
- コープこうべでは1990年から牛乳パック回収を開始、組合員の判断に従った取組みをしています。500ml以上の牛乳、ジュースなどが対象です。
- 乳業メーカーからは定期的な回収キャンペーンや紙パックに変更した学校へのリサイクル講習を実施していること、製紙メーカー、回収問屋からは分別のため人手がかかっていることや量的な供給がほしいとのことでした。
- 課題としては、消費者へ紙パックを分別して出すなどの情報提供とともに、生協・量販店・自治体や各事業者がさらに連携して取組むことが大切との意見がありました。

地域会議の開催場所



現状を知っていただき、
実際のリサイクルを体験する
楽しい講習会です。

【品川区】2月9日

品川区民18名と開催場所の環境情報活動センター職員3名の計21名が参加。寒さ厳しい中、紙すきの水も冷たく、引き締まった立派な手すきはがきができました。押し花などを持参してすき込んでいる方もいて、さらには取材中のケーブルテレビ局員の方も挑戦して雰囲気を楽しんでいました。

【所沢市】5月28日

ゴミ処理における資源の有効利用に力を入れている所沢市では、約80名の関係者が集まる集団資源回収事業団体説明会が行われ、その中で「牛乳パックのリサイクルについて」を講演。出席者からは紙パックの回収方法などの質問もいただき、関心度の高さが窺えました。

【中野区】7月24日

牛乳パックのリサイクルが始まった当初から手をあげてくれた中野区では、区のイベントである「ZEROからはじめよう!エコプロジェクト2011」の一環として講習会が企画されました。参加者は子供19名、保護者13名の計32名。低学年の児童が多く、保護者の方の手助けをいただきながらの手すきはがきづくり体験となりました。



地元のケーブルテレビ局も来て撮影(品川区)

【北区「紙の博物館」】7月28日

飛鳥山公園内にある公益財団法人紙の博物館では6～9月に掛けて「牛乳パック徹底解剖!」と銘打つ夏の企画展が開催され、行事の一環としてリサイクル講習会が行われ、親子41名が参加されました。「牛乳パックのリサイクルと森林管理」の説明の後、DVD「牛乳パック探検隊」を牛乳を飲みながら鑑賞。飲んだ後の牛乳パックで、「洗って、開いて、乾かして」の体験実習をしました。その後、手すきはがきづくりも体験していただきました。

【西東京市】8月4日

小学生の参加者89名と保護者の方20名という過去にない開催規模となったエコプラザ西東京は、熱気いっぱい。紙すき体験では、世界で1枚のオリジナル手すきはがきづくりに挑戦しました。牛乳パックが丈夫な繊維からできていることや、リサイクルの大切さを親子で学んでいただけたと思います。

【品川区】10月7日

2月9日につづき、今回で3回目の開催となり、主婦を中心とした15名が参加。「牛乳パックの紙は良質なのでリサイクルしないともったいない!」をモットーに、全員が牛乳を飲んだ後、容環協が新しく携帯サイトにアップした牛乳パックの開き方動画を見ながら、飲み終わったパックの実際の手開きを学習。その後手すきはがきづくりを体験していただきました。途中ケーブルテレビの撮影も入り、少人数ながらも活気あふれる講習会となりました。



手すきはがきの作り方...伝授!(西東京市)

牛乳パックリサイクル出前授業

リサイクル促進意見交換会

子どもたちの学びの場に。
毎年好評の「出前授業」を
全国の小学校で開催。

関係団体が多数集い、
リサイクルの現状と課題を
話し合う貴重な場に。

【駒ヶ根市立赤穂小学校】2月18日
美しいアルプスの峰々に囲まれた赤穂小学校では、インフルエンザによる学級閉鎖の影響を受けながら、3学年59名の児童の参加となりました。参加した児童たちは、資源の大切さについての講義やDVD「牛乳パック探検隊」にも熱心にメモを取り、手すきはがきづくりの実習では、ハガキができていく過程ごとに感動していました。

【三豊市立大見小学校】2月24日
四国八十八ヶ所の71番札所にあたる「弥谷寺」近くにある大見小学校では、3年生40名の児童が参加。講義やDVD「牛乳パック探検隊」鑑賞後の手すきはがきづくりの実習では、参加した児童のほとんどが初めての体験で、最後に全員ができたハガキを掲げて写真を撮りました。

【吉野川市立上浦小学校】6月17日
環境意識を強く打ち出している徳島県吉野川市の上浦小学校。3年生、4年生の34名が参加し、牛乳パック再利用についてのクイズを交えた楽しいお話などの後、牛乳パックを使った「千代紙を貼って作る小物入れ」の作成実習をしました。自作の小物入れを見せ合った後、最後に代表の児童からお礼の言葉をいただきました。

【須賀川市立阿武隈小学校】6月29日
3月11日の震災に見舞われたにもかかわらず、4年生87名の児童たちが元気で明るい笑顔で出迎えてくれました。紙すき体験では世界で1枚の手すきはがきを完成させ、誇らしげに見せてくれたのがとても印象的で、子供たちに安らぎのひと時を味わってもらえたのではないかと思います。

【西宮市立高木小学校】7月8日
今回の授業は4年生PTAの有志37名が対象。「紙パック6枚でトイレトロール1個ができる」話などにうなずく参加者の方々が見られました。手すきはがきづくりに皆さん熱心で、あるご家庭では紙すきセットを購入し、子供と一緒にやっているなどの話がありました。

【渋谷区立加計塚小学校】9月28日
恵比寿ガーデンプレイスに隣接し、都会的な雰囲気の中にある加計塚小学校では、4・5・6年生の科学クラブ28名の児童が参加。ふだんの科学クラブ活動とは違ったテーマの講義に熱心に聞き入り、手すきはがきづくりの実習でも、アイロンをかけてハガキができていく過程に感激している姿が印象的でした。

【金沢市立泉野小学校】10月14日
小学4年生3クラス95名と保護者の方38名で開催。クラスごとに順番で手すきはがきを作りました。終了後の質問コーナーでは、牛乳パックからのパルプの作り方や手すきはがきづくりのための道具について質問があり、「またやってみたい」という気持ちが伝わってきました。

【全関係者との意見交換会】2月2日
東京・千代田区の乳業会館で、今年も国、自治体、市民団体、乳業メーカー、紙パックメーカー、原紙メーカー、再生紙メーカー、流通事業者、古紙事業者、関係団体から44名が会して意見交換会を開催しました。
農水省からは環境意識醸成の要因となる紙パックリサイクルに出先機関で協力していきたい意向、経産省からは容器包装リサイクル法次期見直しの審議会等での議論の反映に期待したいこと、牛乳パック回収率アップのため情報提供していきたいことなどが報告されました。

また、自治体や乳業メーカーからは分別回収徹底のためのイベントや教育現場での給食用牛乳パック回収への取り組みについて報告がありました。
主な意見として古紙事業者からは紙パックの雑がみへの混入問題の改善が課題であること、再生紙メーカーからは国内紙パックは貴重な製紙原料であることなどが挙げられ、原紙メーカーからはリサイクル活動へのサポートの意向が出されました。全国パック連からは紙パックを他の紙製品と分別排出しないと有効に活用されないことを消費者に正しく伝えることが、回収率をアップし、循環型社会形成にも繋がっていくとの意見が出されました。

【再生紙メーカーとの意見交換会】8月26日
今年も静岡県富士市において、再生紙メーカー5社、古紙回収業者などから31名の出席者で開催されました。容環協会長、全国パック連代表からの挨拶、容環協からの「飲料用紙パックリサイクルの現状と動向について」の報告の後、意見交換が行われ各メーカーより以下のような意見が出されました。

- 紙パック再活用後のリサイクルの問題について
「汚れた紙パックが多いのが問題」「紙パック再生について消費者に正しく理解されていない」など
- リーフレット「紙パックリサイクルほんとはなし」について
「再生紙工場の見学者に配付したい」など
- 雑がみへの紙パック混入の問題提起について
「紙パック回収は経済性の問題から店頭回収を中心に展開するのが良い」「紙パックが市町村の分別品目に入っていることは、リサイクル意識の植え付けなど回収率向上に寄与する」など
- 紙パックの輸出問題について
「海外取引価格の上昇で国内価格が高くなると原料としての紙パック使用は難しい。輸出は大きな問題」など紙パック製造事業者、利用事業者と紙パックの輸出問題について話し合いました。



初めての紙すき体験（駒ヶ根市立赤穂小学校）



出前授業前に校長先生のお話（須賀川市立阿武隈小学校）



重成会長（当時）の挨拶



熱心に意見交換会が行われました

「CO₂排出量の見える化」の活動

紙パックリデュース取り組みの活動

「牛乳」のPCRとして
認定されました。

【紙パック入り牛乳のライフサイクル】

紙パック入り牛乳のライフサイクルで排出されるCO₂の排出割合を試算すると、



販売段階

「紙パック入り牛乳」がお店で売れるまで
※ 試行制度では販売段階はカウントしません。

「原料調達段階」(牛を育て生乳をしぼり工場に運ぶまで、パルプから紙パックを作り工場に届けるまで)が8割以上を占めることがわかりました。

廃棄・リサイクル段階でのCO₂の排出量は全体の0.5%ですが、それでも紙パックのリサイクル率が1%向上すると年間約2,000トンのCO₂排出量削減につながります。

「見える化」をすることで、地球温暖化防止対策の方針が明確になり、効率的なCO₂排出量削減に取り組むことができると考えています。

【活動について】

「CO₂排出量の見える化」は2010年8月19日から乳業協会・容環協の合同ワーキンググループを結成して、CO₂排出量算定のための飲料用紙パックの基準(PCR:商品種別算定基準)づくりを進めてきました。2011年度になって農水省が主体となり策定を進めていた「生乳」のPCRが認定されたことを受けて、紙パック入りに限定した「牛乳」のPCRづくりを進めて、9月の第4回PCR認定委員会を経て正式に「牛乳」のPCRとして認定されました。

【今後の活動】

PCRの運用方法は今後、国や委託先の研究会で審議されて、ISOに沿う形でJIS規格化されることも検討されています。「牛乳」のPCR原案を策定し、認定を受けた立場として、今後、適正な運用方法が決まるまで注視し続けていきます。

今回認定されたPCRでは使用済み紙パックのリサイクル効果の算定方法および表示方法についても認定されているため、紙パックの回収率アップによるリサイクル効果を適切にアピールしていきたいと考えています。



ワーキンググループ会議の様子

また、従来から紙パックのリサイクル効果をわかりやすく示す指標として「1000mlの紙パック1枚をリサイクルすると、焼却する場合に比べて23.4gのCO₂が削減できる」を引継ぎリサイクル講習会や小学校の出前授業等で活用していきたいと思っています。

500mlについて軽量化に目処。

【活動開始のきっかけ】

飲料用紙容器(以後、紙パック)のリデュースについては、原紙の1層→3層化などにより1987年から2002年の間に約5%の軽量化を実現させています。さらなるリデュースは技術上及び品質管理上難しく、特に1000ml容器については中身飲料の品質への影響が危惧され、薄肉化は限界とされていました。

そのような状況下、2006年6月に初の容り法改正が行われ、社団法人日本経済団体連合会(以下 経団連)の提言として、事業者の自主的な取り組みが重要であること等が表明されました。

これを受けて容器包装の素材にかかわるリサイクル8団体は「3R推進団体連絡会」を結成し、2004年度を基準年度としたリデュースの取り組みを推進することになりました。その一団体である飲料用紙容器リサイクル協議会(※1)の団体会員として容環協は紙パックのリデュースについて検討を進めてきました。

- ※1 飲料用紙容器リサイクル協議会とは
設立 1997年3月18日
目的 会員相互の協調のもとに、廃棄飲料用紙容器(アルミニウムを利用しているものを除く)についてリサイクルを促進することを目的とする。
構成団体
全国牛乳容器環境協議会
社団法人 全国清涼飲料工業会
社団法人 日本果汁協会
社団法人 全国はっ酵乳酸菌飲料協会
酒類紙製容器包装リサイクル連絡会
印刷工業会液体カートン部会

- ※2 リデュース目標(第2次計画)とは
経団連の第2次自主行動計画のことで、2004年度を基準年度として2011年度から2015年度の5年間の計画としています。飲料用紙容器リサイクル協議会のリデュース目標は、「500ml牛乳パックを3%軽量化する」こととしています。

【進捗状況と今後の活動】

第1次計画(2004年度を基準年度とし、2010年度を目標年度とした計画)における紙パックのリデュース取り組みでは、平均重量を1%軽量化することを目標としていましたが前記の理由により実現できませんでした。

そこで「500mlの牛乳パック」に限定したリデュースの可能性について技術的な検討を進めてきた結果、中身飲料の品質に影響を与えず、運搬時に漏れのない強度のある紙パックを安定して製造できるとの結論に至り、2011年9月に飲料用紙容器リサイクル協議会として「従来の500ml牛乳パックと比較して、2~3%程度ならば軽量の原紙を使用しても従来と変わらず品質を保持する目処を付けた」ことを公表しました。

容環協としては、500mlの牛乳を製造する乳業メーカーにこの紙パックの使用を促すと共に、紙パックを製造する容器メーカーに品質の安定した軽量仕様の紙パック供給をお願いすることで、2015年度を目標年度とした第2次計画(※2)のリデュース目標の実現を図るため、さらなる活動を推進していきます。



500ml軽量カートン輸送テスト品



リサイクルの大切さを啓発。
紙パックの手開きや
紙すきを体験しました。

【エコライフ・フェア2011】6月4日、5日

環境省主催のイベント「エコライフ・フェア2011」が、6月4日、5日(環境の日)に代々木公園で開催されました。環境に関心の高い人が多く集まるエコライフ・フェア。今年の来場者数は2日間で延べ73,000人と、昨年より3,000人の増加。容環協は、昨年同様に全国パック連との協働で出展しました。

ブースでは、「手すきはがきづくり」「牛乳パックを使った小物づくり」が行われ、親子連れなどが体験を楽しみました。ワークショップではリサイクル講義を行い、牛乳を飲みながら新しくなった「牛乳パックン探検隊」のDVDを鑑賞後、森林管理の話からリサイクルの流れ、リサイクルするとCO₂削減もできることなどを学んでもらいました。その後、飲み終わった紙パックの手開き体験では、「こんなに簡単に開く方法もあるのか」などの声も聞かれました。



「小物づくり」の実演風景



ワークショップでのリサイクル講義風景

連日盛況の容環協ブース。
国内最大級の環境展に
出展しました。

【エコプロダクツ2011】12月15日～17日

毎年12月に東京ビッグサイトにて開催される国内最大級の環境展「エコプロダクツ2011」に、今年は牛乳パック再利用マーク普及促進協議会との共同出展で連続8回目となる出展を行いました。

今年の来場者数は前年を少し割り込む181,487人。

容環協ブースはエコプロ出展初の試みとなるワークショップ「牛乳を飲んで紙パック手開き体験」、全国乳業メーカーから提供されたご当地牛乳パックによる「紙パックの日本地図」壁面展示を行いました。

また、恒例となった、全国パック連の協力による「手すきはがきづくり体験」や「リサイクルパネル展示」と連動したクイズラリー「パックンクイズ」、「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」受賞作品展示なども実施し、容環協ブースは連日来場者で賑わいました。



ワークショップ風景



ご当地牛乳パックによる「紙パックの日本地図」

南部彩華さんの作品「エコバッグ」
がみごと最優秀賞に。

今年で11回目を迎えた「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール」は、小学生を対象とした牛乳パックの工作コンクールです。全国より寄せられた3,982点もの応募作品の中から厳正な審査の結果、受賞作品7点が選ばれました。



最優秀賞作品「エコバッグ」
南部 彩華さん

《受賞作品》

- ◆最優秀賞 「エコバッグ」
南部 彩華さん(宮城県涌谷町立涌谷第一小学校3年)
- ◆優秀賞 「モーモータウン」
久保谷 尊さん(茨城県つくば市立栗原小学校3年)
- ◆優秀賞 「みんなの心の中にあるもの」
大久保 甲斐さん(山口県山口市立小郡小学校3年)
- ◆全国小中学校環境教育研究会賞 「きぼう。そして未来へ」
前田 康汰さん(千葉県佐倉市立西志津小学校5年)
- ◆全国牛乳パックの再利用を考える連絡会賞
「ひえひえワンちゃんベッド」
鈴木 海晴さん(神奈川県横浜市立朝比奈小学校5年)
- ◆全国牛乳容器環境協議会賞 「かいぞくせんむつきごう」
石井 悠雅さん(東京都世田谷区立京西小学校1年)
- ◆日本乳業協会賞 「おみこし ワッショイ!」
谷合 功次さん 阿部 佑一朗さん 久保田 陸さん 佐藤 湊さん
横田 楓佳さん
(神奈川県座間市立相模野小学校 特別支援級)

いずれも秀作ぞろいで、最優秀賞に選ばれたのは、宮城県涌谷町立涌谷第一小学校3年・南部彩華さんの作品「エコバッグ」。お母さんにミシンの使い方を習いながら作った作品なのだそうで、お買い物にも使える実用的な作品です。

受賞作の表彰式は「エコプロダクツ2011」の容環協ブースにて行い、審査委員長の東京国立博物館銭谷館長、実行委員長の容環協中野会長はじめ審査委員の方々から、受賞者7名にそれぞれ賞状・盾・副賞が贈られました。受賞者答礼は最優秀賞受賞の南部彩華さんが行い、作品制作までの工夫と想いを述べました。

受賞作品は容環協の子ども向けホームページ「牛乳パックン探検隊」で紹介されています。



最優秀賞受賞の南部彩華さん



エコプロダクツ2011で行われた表彰式

容環協の発行物

その他の活動

紙パックの特性や
分別の大切さをわかりやすく学べる
リーフレットを作成しました。

「紙パックリサイクルほんとはなし」

容環協では環境負荷が少ない社会、一人ひとりが環境を考え行動する社会の実現に向けて「紙パックの回収率を高める」「紙パックの環境特性を正しく伝える」「環境を考え、行動する人を増やす」ことを行動計画の目的として、さまざまな活動を行っています。

活動を通して、日頃よく質問されることや疑問に思われていることについて、図柄を多く使用して誰にでもわかりやすいようにお答えしています。

主な内容として紙パックが環境にとってもやさしいこと、他の紙製品と分別しないとせっかくの資源が有効に活用できなくなってしまうことなど、「紙パックリサイクルほんとはなし」として発行しました。



「紙パックリサイクルほんとはなし」

容環協ではリサイクルから
地球環境を考えられるように各種
の刊行物を提供しています。

書籍「紙パック宣言」

紙パックの特性やリサイクル活動などを詳しく解説した書籍で、リサイクルの意識を深めながら地球の未来へ向けた提言となるような内容となっています。

監修に早稲田大学政治経済学術院の寄本勝美教授、著者に株エコイプスの猪瀬代表、全国パック連の平井代表のほか、容環協からも7名参画しました。

「牛乳パックリサイクル全国20事例集」第3集

紙パックの回収システムは店頭回収、市町村回収、集団回収の3ルートが確立されていますが、分別回収には地域での理解や工夫が必要です。この事例集は全国の市民団体、自治体、事業者各分野での実践事例を紹介してリサイクルのさまざまなシーンでの課題解決のヒントとなる事を目的として編集しています。



書籍「紙パック宣言」
日本評論社



第3集となった「全国20事例集」

「紙の博物館」イベントへの参加
— 夏の紙知リズ —

【紙の博物館イベント】6月14日～9月4日

公益財団法人紙の博物館の夏のイベント「牛乳パック徹底解剖！(夏の紙知リズ)」に展示協力しました。牛乳パックがいつ頃誕生しどのように作られているのか、牛乳パックの歴史、製造工程をはじめ、さまざまな紙パックの種類のご案内や「洗って、開いて、乾かして」の回収方法となぜ必要なのか、どんな再生品に生まれ変わるのかなどの紹介がありました。

ホールには全国の乳業メーカーから地域毎に集められた牛乳パックで作られた大きな日本地図が展示され注目を集めていました。また、牛乳パックを工作の材料としたコンクール「牛乳紙パックで『遊ぶ学ぶ』コンクール2010」受賞作品の特別展示もありました。



紙の博物館夏のイベント開催ポスター



乳業メーカー会員提供
「日本地図とツリーオブジェ」

WEBを活用した最新情報の発信

【容環協ホームページ】

容環協の開設しているホームページでは活動の最新情報である「牛乳パックリサイクル促進地域会議」や「牛乳パックリサイクル講習会」、全国小学校での「出前授業」の様子などの報告が閲覧できます。また、各年度の年次報告書、中期行動計画「プラン2015」やリサイクルの事例、各会員の活動なども更新されています。小学生向けには「牛乳パック探検隊」のコーナーがあり、小学生が楽しみながらリサイクルや環境を守る大切さが学べるようになっています。

容環協HP

<http://www.yokankyo.jp>

牛乳パック探検隊HP

<http://www.packun.jp>

携帯電話用のWEBサイトも開設し、簡単な手開き方法を紹介した「紙パックの開き方」を動画で確認する事ができるようになりました。

携帯用

<http://www.yokankyo.jp/mobile/>



容環協ホームページ



牛乳パック探検隊ホームページ